

(参考)

2021 年 月 日

担当者 会 社 名 _____
 住 所 _____
 所 属 _____
 氏 名 _____
 連絡先 TEL _____

事業計画書（新製品開発助成事業）

課題名 _____ の技術開発（ _____ ユーザーニーズ型）
 会員提案型開発課題については、（ ）の記載は不要です。

「日船工技術開発ロードマップ」の該当項目

該当する系統：機関 推進系

該当する項目：低騒音・低振動システム

「今後の技術開発事業のあり方」の該当項目

「今後の技術開発事業のあり方 1.新製品開発助成事業について」の「(1)の(b)」
 のうち、今回の開発事業が該当する項目を記述して下さい。

例) IMO・ISO 等の国際基準化を先取りすることが可能な製品開発

1. 事業の目的

今回の事業が、どのような開発を意図したものなのかについて概要を記述して下さい。すなわち、その開発の意義・必要性（社会的背景）は何か、開発上の課題は何か、開発の成果によってどのような効果をもたらすのか、を記述して下さい。また、助成の対象は「新製品」の開発であり、国内海外を問わず既存製品が存在する場合は除かれるため、新規性は何か、既存製品と何が異なるのかを明確に記述して下さい。

350字(全角)以内の文字数で、文章として記述して下さい。

350字で記述頂いた概要を補足するために、上記の概要で記述いただいた4項目(意義・必要性、課題、効果及び新規性)について、下記の区切りの文言の例を参考に、その後にそれぞれの項目を補足するようにして下さい。

<350字以内で事業の目的の概要を記述した後の区切りの文言の例>

本事業の目的は以上のとおりであるが、個別の事項について補足すると以下のとおりである。・・・・・・

2. 事業の目標（1年計画の場合は、「2.1項」、「2.2項」は不要です。すなわち、「2.事業の目標」＝「本事業の最終目標」となります）

2.1 本事業の最終目標（最終年度の目標、2年計画ならば2023年度の目標）

(1)...を %低減する。

(2)...を 倍以上にする。

2.2 2022 年度の目標（1 年計画の場合は、「2.1 項」、「2.2 項」は不要です。）

(1)...を トン削減する。

(2)...を 時間軽減させる。

事業の達成度を評価できるように、定量的な目標値を 2 つ以上設定して下さい。また、複数年にわたる事業の場合は、年度ごとの目標も設定して下さい。

注：2.1、2.2・・・の記述は原則として合わせて 700 字以内として下さい。

3. 事業内容

3.1 2022 年度の実施内容

事業の内容を具体的に詳しく記述して下さい。下例（「A A A の調査」、「B B B の設計」等）を参考にして、箇条書きで項目名を掲げその内容を具体的にわかりやすく記述して下さい。この項目名については、「4. 実施予定表」の「実施項目」及び「7. 開発費概算」の「算出根拠」における項目名と同一として下さい。4. と 7. を参照することで、この事業をどのようなスケジュールで、どのくらいの費用を掛けて実施するのかがわかるようにして下さい。

複数年にわたる場合には、年度毎に分けて事業内容を記述して下さい。

各項目はなるべく短く的確な表現として下さい。どうしても長くなる場合は、下記の「例）(3)」のように、略した表示を設定して下さい。

例）(1) A A A の基本設計

...を行うため、...や、...の基本設計を行う。

例）(2) B B B の設計

A A A の基本設計を基に、.....し、# # の機能を盛り込み、大きさが & & 以内、重さが @ @ 以内になるように、B B B の設計を行う。

（具体的に、「何を」、「どうするのか」わかりやすく記述して下さい。）

例）(3) & & の機能を有し # # # を可能とする C C C の試作（C C C の試作）

3.2 2023 年度の実施内容（1 年計画の場合は、本 3.2 項は記述の必要はありません）

4. 実施予定表

「3. 事業内容」に掲げた項目毎に、どのようなスケジュールで事業を進めていくのかを記入して下さい。複数年にわたるものは各年度毎に記入して下さい。

実 施 項 目	2022 年度			
	1/4	2/4	3/4	4/4
A A A の基本設計	←→			
B B B の設計	←→	←→		
C C C の試作		←→	←→	
D D D の実船実験			←→	←→
E E E の性能評価			←→	←→
報告書作成				←→

本事業は 2 月末までのため、1 か月分開けて下さい

5. 社会的背景、効果等

(1)社会的背景

現状（の技術）では何が問題になっているのか。何が必要なのかを記述して下さい。

例）現状の装置は、燃費節減効率も 1 % とあまり高くないうえ、月に 1 度のメンテナンスが必要になる。燃料価格の高騰並びに船員の能力低下により、燃費節減効率及びメンテナンス性の更なる向上が望まれている。

(2)緊急性

なぜ今回の開発を来年度から実施する必要があるのかを記述して下さい。

例）「WW 規制」が XX 年から施行されるため、それに間に合うように UU 装置を開発し、市場に投入する。

(3)日本産業にとってのメリット

今回の開発により製品化された物は、日本産業にどのようなメリットをもたらすのか、具体的に記述して下さい。

例）今回の開発で新たな製造方法確立することにより、宇宙分野や下水道分野での応用も可能になるため、日本産業にとって大きなメリットとなる。

(4)新規性

今回開発する製品の新規性について、他産業での現状も踏まえて記述して下さい。

例）今回開発する UU 装置は、陸上の TT 装置に使用されている VV 技術を活用し、高温多湿で更に塩害の影響を受ける船舶でも使用できるようにする。そのために、RR の機能を付加させることにより燃費節減効率の向上とメンテナンス間隔の長期化を実現し、海運業界初となる装置を開発するものである。

(5)期待される効果

経済上の、環境上の又は労働安全衛生上の効果を、現状と比較して具体的な数値を用いて記述して下さい。

例）30 万トンのタンカー 1 隻で、1 日に約 100 トン（約 500 万円（1 トン 5 万円換算とした場合））の C 重油が消費されているが、UU 装置を採用することにより約 3% の燃費削減が可能になり、1 日で約 3 トン（約 15 万円）燃料を削減することが可能になる。これを年間で考えると、1 年間で 200 日運航している場合は、約 600 トン（約 3000 万円）の燃料を削減することが可能になる。また 1 回のメンテナンスに約 5 時間かかる。1 年間のメンテナンス回数を 12 回から 4 回に減らすことができるため、船員の労働時間を 1 年間で約 40 時間軽減することが可能になる。

(6)市場規模（対象船舶の船種、隻数等）

本開発品がターゲットとする市場の規模を、数値を用いて明確に記述して下さい。

例）年間約 70 隻新造される内航ばら積み船をターゲットとする。

(7)販売予定台数及び販売予定価格

本開発終了後に、どのようなスケジュールで、どのような販売（対象船舶の船種、隻数、販売台数及び販売予定価格）を目指しているのかを記述して下さい。

例) 2024 年度中に販売を開始し受注を目指す。販売数は、2024 年度は新造の内航ばら積み船の 5% (4 隻) に対し、合計 4 台を販売し、翌年の令和 5 年度は、10% (8 隻) の販売を目指したい。

販売価格は 1 台 3 億円程度を考えている。従来価格より高価であるが燃費節減効果により 5 年で償却が可能である。

6. 開発期間

2022 年 4 月 ~ 20XX 年 2 月

7. 開発費概算

目	目の細分	金額(円)	算 出 根 拠
調査研究費	設計費	(16,155,000) 4,000,000	工費 $40,000 \times 100$ 工数 = 4,000,000 A A A の基本設計 $40,000 \times 2 \text{ 人} \times 20 \text{ 日} = 1,600,000$ B B B の設計 $40,000 \times 4 \text{ 人} \times 15 \text{ 日} = 2,400,000$
	試作費	6,600,000	工費 $40,000 \times 100$ 工数 = 4,000,000 C C C の試作品(工費) $40,000 \times 2 \text{ 人} \times 50 \text{ 日} = 4,000,000$
	購入品費	2,600,000	購入品費 2,600,000 C C C の試作品(購入品費) 2,600,000 ・ 試作品用鋼材等 (2,000,000) ・ センサー (600,000)
	試験費	5,555,000	工費 $40,000 \times 116$ 工数 = 4,640,000 D D D の実船実験 $40,000 \times 2 \text{ 人} \times 40 \text{ 日} = 3,200,000$ E E E の性能評価(工費) $40,000 \times 2 \text{ 人} \times 3 \text{ 日} = 240,000$ 報告書作成 $40,000 \times 5 \text{ 人} \times 6 \text{ 日} = 1,200,000$
	委託費	915,000	委託費 915,000 E E E の性能評価(委託費) 915,000 ・ EMC 試験 (600,000) ・ 振動試験 (315,000)
	合 計	16,155,000	(消費税込み)

- ・ 上記は一例です。本例に準じて費用の内訳を提示して下さい。
- ・ 但し「目」は、『調査研究費』として下さい。
- ・ 該当費目については募集要項を参照して下さい。

- ・作業費(工費)と、購入品費等の費用は明確に分けて下さい。
- ・作業費(工費)の単価は、4 万円(1 人 1 日(8 時間))とします。また、作業費(工費)に係る費用計上は、作業する人数と日数をそれぞれ明示して下さい。
- ・「目の細分」ごとに工費をまとめて表示していただきますが、その際に作業人数に日数を乗じたものを『工数』として表示して下さい(例 2 人×6 日=12 工数)。
- ・費用の計上に際しては、「3. 事業内容」の項目名と関連づけて、事業内容のどの項目にどれだけの費用が掛るのかがわかるようにして下さい。
- ・複数年度の場合は、年度毎に作成して下さい。

8. 開発の体制

1)主 体

応募された会員が主体者となります。(複数社となる場合は代表となる社を明記)

2)協力者

共同で実施する企業、研究機関、大学等を記述して下さい。

3)指導者

指導を依頼する方がある場合は記述して下さい。

4)役割分担

主体と協力者(指導者)間の役割分担を具体的に記述して下さい。

9. その他(製品化に向けた取組)

本新製品開発助成事業終了後、実船搭載による実証運転、実証試験等を予定している場合には、そのスケジュールを記述して下さい。